

## 令和元年度 人権標語講評

### 小学校の部 (52 編)

日常生活の中で感じた人権課題について、素直に表現した作品が多く見られる。中でも優秀作品は、友達との関わりの中で、心が深く揺り動かされた場面をその子どもなりの言葉を使い表現している。

### 中学校の部 (10 編)

日常生活の中で感じた人権課題について、中学生らしい感性や権利意識で表現した作品が多く見られた。

中でも優秀作品は年齢・環境的にスマホでのトラブルが多発している状況を鑑み、スマホの使い方に視点を当てたものが印象的であった。

### 高等学校の部 (5 編)

高校生として、広い視野で人権について見つめ感じたことを作品にしている。

優秀作品は、高齢化社会と言われる現状の中から、祖父母から伝えられる素晴らしさを表現したり、様々な特性をもった人の良さに目を向けたりするものであった。

### 一般の部 (11 編)

地域や町・市全体という大きな視点で人権について考えた作品が多く見られる。

その中でも、優秀作品は、日常の一コマに焦点を当てて、人権について改めて考えてみることの重要性を提起した作品であった。